【スコットランドへの公式訪問における報告】

長崎市議会議員　野口　達也

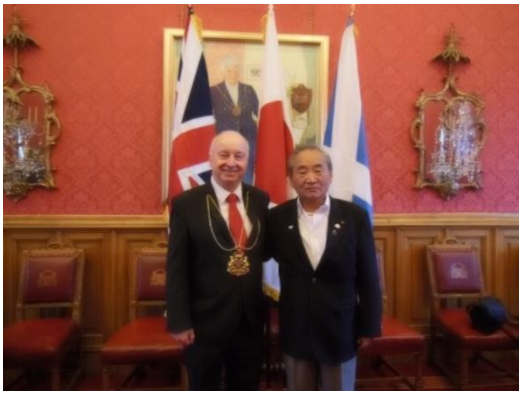
出張期間　平成 28 年 8 月 20 日(土)～26 日(金)　7 日間
出 張 先　スコットランド（アバディーン市、エディンバラ市）

1、　アバディーン市

① アバディーン市長表敬訪問

長崎市と市民友好都市であり、トーマス・ブレイク・グラバーの出身地であるアバディーン市は、人口 20 万人のスコットランドでエディンバラ、グラスゴーに続く３番目の都市で、花崗岩による建築物で、ほかの町にない落ちついた美しい印象を与え、太陽が出るとその光線によって建物に反射してキラキラと銀色に輝くことから「海の銀色の都市」とも呼ばれている。

市庁舎は古いものの、花崗岩造りによる重厚さを感じた。グラバーの出身地ではあるが、アバディーン市民への認知度は低く、グラバーが長州藩へ調達した軍艦が建造された港に近いグラバー資料館では、「スコティッシュ・サムライ」として、これから認知度を高めていくとのことであった。



②　水素エネルギー関連施設視察

水素から電気を取り出す燃料電池は､21 世紀には化石燃料に替わるエネルギー源として、世界中でし烈な開発競争が展開されている中、アバディーン市に水素経済を作り出すための計画「アバディーン市域のための水素経済」を発表、ヨーロッパで最大の燃料電池バス艦隊を持ってくる2,000万ポンドのアバディーン水素バスプロジェクトに取り組み、再生可能エネルギー分野の発達を加速させることを目指している。

アバディーン市では、現在 10 台の路線バスが走っており、2014 年に建設された水素から燃料電池へ変換する燃料ステーションを利用している。

③　ラグビーアカデミー視察

スコットランドラグビー協会のラグビーアカデミーを視察。アバディーン大学ヒルヘッドキャンパスに 2014 年 10 月に開設されたアカデミーで、14 歳以上の男女で才能のあるラグビープレイヤーの指導を目的としている。このアカデミーには、中・高・大学より 40 名が参加し 15 名のプロ候補者がおり、専門のコーチ・専属トレーナーの指導により４ランクに分けて、技術面・体力面などを磨いている。また、施設内には、筋力トレーニング室や怪我をした選手の治療室、個々の選手の特徴を分析する部屋も完備されていた。スコットランドには、地域を３つにわけアカデミーを展開している。毎年、ナショナルチーム入りの選手を輩出している。

④ スコッチウイスキー蒸留所視察

スコッチ・ウイスキーは、スコットランドで製造されるウイスキーのこと。糖化から発酵、蒸留、熟成までスコットランドで行われたウィスキーのみがスコッチ・ウィスキーと呼ばれる。視察地のグレンギリ―蒸留所は、1797 年創業のスコットランドで最も古く、一番小さな蒸留所で 200 年の歴史がある。蒸留所一帯は、古くからの大麦の主産地で、古くからウイスキーづくりが行われてきた。蒸留所名のグレンギリ―とは「谷間の荒れた土地」という意味で、ウイスキーづくりは大麦・水・イーストが命で、発酵温度は 63.5 度で管理し、現在はサントリーが親会社になっている。

２、　エディンバラ市

① スコットランドラグビー協会との事前キャンプ調印式

ラグビーワールドカップ 2019 出場のスコットランドチームによる長崎市での事前キャンプが決定し、スコットランドチームのホームスタジアムであるＢＴマレーフィールドスタジアム（エディンバラ市）において、スコットランドラグビー協会のマーク・ドットソンＣＥＯと田上市長が正式に準備キャンプの調印式を行った。

② Ｕ－15 ラグビー交流試合（長崎代表－スコットランド代表）観戦

長崎市子どもラグビー国際交流事業（スコットランドラグビー協会との交流の一環）として、15歳以下の中学生15人をスコットランドに派遣し、スコットランドの15歳以下チームと交流合宿を実施することで、青少年の健全育成並びにスコットランドとの交流促進を図ることを目的にした交流試合を観戦した。

③ 在エディンバラ日本国総領事表敬訪問

松永総領事の公邸へ表敬訪問し、夕食会交流レセプションにおいて、スコットランド政府のフィオナ・ヒスロップ文化・観光・対外問題大臣も来訪。ヒスロップ大臣が昨年長崎を訪れた際に考案されたフィオナ寿司を試食するなど、スコットランドとの友好関係を深めることができた。

３、　所　感

今回の公式訪問団に参加して、トーマス・ブレイク・グラバーから始まる長崎市とスコットランドとの「縁」に感謝するとともに、これまでの経済交流だけでなく、ラグビー（スポーツ）を通じた友情を未来につなげるという意味で、いい交流ができたと考える。

アバディーン市は、坂本龍馬がグラバーに依頼して長州藩への軍艦を製造した港町でもあり、石造りの街並みの重厚さ、大きな交差点はほとんどロータリー交差点（ラウンドアバウト）で、路線バスに２階建バスが多く使用されていた。朝の散歩中にはホテル近くの公園にリスや小鳥が顔を出し、再生エネルギー率は約50％であり、「自然と伝統を大切に歩んできた街」の印象を受けた。

アバディーン市主催の夕食会では、市庁舎内の特別空間「タウン・アンド・カウンティホール」という非常に伝統のある部屋において、アバディーン市に短期留学している日本人学生の皆さんやイギリス全土から日系企業の皆様もかけつけていただき、100名を越える方々に大歓迎を受けた。アバディーン市と日本の懸け橋となる長崎市の訪問団として有意義な夕食会になった。

エディンバラ市ではフォース湾に架かる「鉄道橋」やエディンバラ城を中心に広がるオールドタウン（旧市街地）は、石畳の道や石造りの建物など中世エディンバラそのままの街並みが残る世界遺産都市を肌で感じることができた。一方で、メイン道路には、2014年５月に58年ぶりに復活したＬＲＴと２階建バスが走り、市民の足として定着している。スコットランド・ラグビー協会招待の「エディンバラ・ミリタリー・タトゥー」は、エディンバラ城で毎年開催されているお祭りで、スコットランド伝統のキルトを着た軍楽隊によるバグパイプパフォーマンス、子ども達によるバイクのアクロバットショー、エディンバラ城をバックにした光の演出、華麗なダンス、打ち上げ花火など、光と音楽の壮大な演出に感動した。

現地では、毎日、朝８時過ぎから夜11時までのタイトなスケジュールではあったものの、視察項目のみでなく、視察地の空気・匂い・人々との交流を自分の目で見、耳で聞き、直に触れることができ、世界の広さ、違いを体験・経験できたことは、今後の議会活動にも繋がるものであり、大変有意義な訪問であった。